

三鷹市大沢のボランティアに関わる人の「思い」を明らかにする

—ボランティアの「きっかけ」と「継続の理由」—

徳本 唯花

本研究は、東京都三鷹市大沢地区で行われている「三鷹大沢わさび復興プロジェクト」のボランティア活動に注目し、参加者がどのような「きっかけ」で参加し、なぜ「継続」しているのかを明らかにするものである。ボランティア活動をする上での利点や課題を探るため、ボランティア活動歴の異なる5名へのインタビュー調査を実施し、質的データとして分析した。

その結果、参加のきっかけには「好奇心」「使命感」「つながりへの期待」などが見られ、継続の理由としては「達成感」「仲間の存在」「地域への貢献の実感」などが挙げられた。一方で、「参加の負担」「活動の不透明感」「排他的な空気感」などの課題も見られた。

これらの結果は、ボランティア参加を促進し地域のコミュニティを形成していく上で、今後考えるべき論点を示すことにつながった。

キーワード：ボランティア 三鷹市大沢 コミュニティ

1 はじめに

1.1 本研究の目的と背景

本研究は、私自身が「三鷹大沢わさび復興ボランティア（以降：わさびボランティア）」と呼ばれるボランティアに参加し、そこで活動している市民の生き生きとした姿に感銘を受けたことから始まる。一見すると、わさび田の再生や農作業は、行政や専門の業者が担うべきものであるようにも思え、市民による「ボランティア」はいわば不必要なはずの労力であり、そこに強制力も報酬もないのである。では、この人たちの活動は一体どんな「きっかけ」で始まり、さらにそれがどのようにして「継続」されているのか。

この二つの問いを明らかにすることは、ボランティアの「メリット」とは何か、を考えることにつながると考えている。さらに、わさびボランティアのさらなる活性化、さらには三鷹市全体のボランティア活動に役立てられ、それは三鷹市の人口増加により求められ始めている、地域コミュニティの創出にも役立つだろう。

1.2 三鷹市大沢の地理

三鷹市は、東京都のほぼ中央に位置し、武蔵野台地の上、多摩地域の東端にある。また、大沢地区は、三鷹市の南西に位置し、調布市、小金井市、三鷹市井口・野崎・深大寺に接しており、三鷹市の11の町の中で最大の面積をもつ。地形上の特徴として、三鷹市では立川段級と武蔵野段丘が国分寺崖線という急斜面で分けられている。これが「ハケ」と呼ばれ、古代の多摩川が侵食されてできており、多数の湧水地点がある。大沢を流れる野川にはこの豊富な湧水が注ぎ込まれている。そして、その増水時の野川の激流を指してできた地名が現在の「大沢」となっている。

1.3 三鷹市大沢の歴史

水の豊かな三鷹市には、井の頭池遺跡群をはじめ、野川・仙川の河川に沿って多くの遺跡がある。三鷹市大沢には、出山横穴墓群 8 号墓という横穴墓を見ることができる。他にも、大沢の地域には野川沿いに、旧石器時代からのいくつかの遺跡が確認され、湧水や川の恩恵を受けて昔から人が住んでいたことがわかる。そして、江戸時代になると、古くからある牟礼・大沢の村落は幕府の直轄地となり、その後幕府財政立て直しのための武蔵野新田開発で、井口・深大寺・野崎とともに大沢にも新田が誕生していった。

2 三鷹大沢わさび復興プロジェクトのボランティアとその可能性

2.1 三鷹大沢わさび復興プロジェクトとは

江戸時代に、栽培が始まったのが三鷹大沢わさびである。大沢村の箕輪家に婿入りした政右衛門は、その地の湧水の豊富なことに驚き、当時江戸市中で寿司が流行する中で、共にブームとなっていたわさびの栽培をここで行おうとした（三鷹市スポーツと文化生涯学習課 2024）。わさびの生育には、夏でも 20℃以下、冬には凍結しない環境が必要であり、水温の安定した湧水はその栽培に適していた。そして故郷である伊勢からわさびを取り寄せ、栽培を始める。そんな三鷹大沢わさびは、小ぶりだが味が良いと評判だったようだ。その後、昭和に進んだ市街地化と道路整備により湧水が減少し本格的なわさびの生産は行われなくなった。しかし、現在もわずかな区域にわさび田が残っており、その DNA 鑑定が行われると、日本に現存する三大栽培品種のどれにも属さない在来種であることが確認されたのである。

この貴重な在来種である三鷹大沢わさびを、保全・復活させようとする取り組みが、三鷹市大沢では行われている。それが三鷹大沢わさび復興プロジェクトというもので、三鷹市生涯学習課がサポートしながら、主に三鷹市民が、月に 1 度、わさび田の整備や苗付けなどを行い、そのほかにも国際基督教大学や野川公園にもわさび田のフィールドをもち、そちらも月に何度か手入れを行う活動をしている。

2.1.1 三鷹大沢わさび復興プロジェクトの活動の流れ

実際に現地に出向き、このボランティアの活動を調査した。以下は、その日の活動の流れである。

2025 年 2 月 1 日（土）天気：晴れ 場所：三鷹大沢の里古民家 参加人数：15 人程度

9:30 古民家前での全体ミーティング

円形になってミーティング。ミーティング内容は、新規参加者のための軽い自己紹介、その日の活動内容の確認であった。

9:38 1 つ目のわさび田（※1）の清掃作業開始

わさび田に落ちている枯葉拾い、水路の整備など、わさびに湧き水が届くようにするための活動。ほとんど低姿勢で行うため、腰に負担がかかる。一人で黙々と作業をする方、お話をしながら和気藹々とした雰囲気で作業をする方もいた。

10:00 日除の移動

10:40 1 つ目のわさび田の清掃作業終了

この日はおよそ 5L もの枯葉が集められていた。

10:51 古民家前での休憩

古民家の前にパイプ椅子を並べ、お茶を飲みながらの休憩。

11:02 2 つ目のわさび田の清掃作業開始

11:30 古民家前での休憩

生涯学習課の方から、来月の活動のお知らせや、参加者の中で他の地域活動をしている方が、その活動の宣伝をするなど。隣の人とおしゃべりをする様子も見られ、和やかな時間が流れていた。

12:00 活動終了

2.2 三鷹市の現状

三鷹市市民部市民課が毎年発行している「住民基本台帳からみた三鷹市の人口の推移」によれば、三鷹市の人口は、1984年から2024年にかけて160,965人から189,959人にまで増加している。江戸時代に新田ができ、その頃から三鷹市に住み続けている人たちと、新しく三鷹市に住み続けている人との繋がりや創出が、今の三鷹市の課題の一つであり、これは、第5次三鷹市基本計画（三鷹市 2024）でも述べられている。

2.3 三鷹大沢わさび復興プロジェクトの可能性

元から住んでいる人と新しく住み始めた人との交流の場の一つとして挙げられるのが、ボランティア活動ではないだろうか。特に三鷹大沢わさびのように、地域特有の魅力が存在することで、共通の目的を持ち、活動できる取り組みは、コミュニティを作ることにも貢献する。三鷹大沢わさび復興プロジェクト、ひいてはそれに類する活動への地域の人たちの活動者を増やすことで、三鷹市の課題を解決できると考えた。

3 ボランティアとは何か

3.1 ボランティアの定義の先行研究

ボランティアの定義は多岐に渡り、書籍や論文によって多様である。本研究では、主に二冊の書籍を参考にした。

3.1.1 ボランティアの満たすべき3要素

『これだけは理解しておきたいボランティアの基礎』（久米隼 2021）によれば、ボランティアは以下の三つの要素を満たす必要がある。

1. 「自発性」

参加者が自ら活動したいと思い、参加しているという意識のこと。ボランティアの語源は vol-untas（ラテン語：有志者、自ら進んでする）にあり、学校や市に組み込みを強制されるものはボランティアではない。

2. 「無償性」

活動の対価として経済的な報酬を目的としないこと。金銭ではなく人と人とのつながりや交流関係、多くの経験を得られることを目的としている。ただし、本書では、ある程度の経済的な負担軽減（交通費・お弁当代など）は持続可能な活動の上で差し支えないと主張している。

3. 「利他性」

他人の利益だけを考えるものは奉仕であり、自らの利益だけを考えるものは単なる私的な活動である。他人の利益になるように努めつつ、自らの動機ともつなげる「双方型」の形の活動をボランティアとして定義されている。

3.1.2 ボランティアの性格

『ボランティアのすすめ』（岡本栄一 2005）によれば、ボランティアは以下の5つの基本的性格をもっているという。

1. 自発性・主体性：さまざまな社会課題に対して、自分の意思で積極的に関わっていくこと
2. 公共性・福祉性・連帯性：個人的な利益や楽しみのための活動ではなく、共に生きる豊かな社会の創造を目指すこと
3. 無償性・非営利性：金儲けの手段ではないこと
4. 自己成長性：ボランティア（参加者）自身も成長していくこと
5. 継続性：継続することによって相互の信頼関係が深まること

3.2 本研究での定義

以上のことから、本研究ではボランティアを、自ら進んで（自発性）、金銭的な利益等ではない動機、他人の利益にも自分の利益にもなる動機を活動の「きっかけ」としてもち（無償性）、ボランティアを「継続」することで参加者が成長して互いに信頼を培う活動とする。

4 インタビュー調査

4.1 インタビュー調査の概要

三鷹市大沢わさびボランティアの参加者はそれぞれが「きっかけ」をもち、それぞれの「継続の理由」をもっている。本研究では、そのなかから2人と、さらに、今までにわさびボランティアだけでなく、ボランティア活動自体に参加したことのない2人、わさびボランティアに参加していたが、活動を中止した1人にも聞き取り調査を行い、それらを比較することとした。調査対象者（A～E氏とする）の基本的な概要は以下である。

	性別	ボランティア活動歴	調査場所・調査日	備 考
A氏	女性	古民家開設前 約7年前～	三鷹ネットワーク大学/2025.1.19	
B氏	男性	約6年前～	三鷹市市民協働センター/2025.1.20	
C氏	男性	なし	三鷹ネットワーク大学/2025.12.28	
D氏	女性	なし	三鷹市役所/2025.1.08	
E氏	女性	活動中止	三鷹駅前コミュニティセンター/2025.1.25	

本研究では、インタビュー形式で、各対象者に1時間ほどの聞き取り調査を行ない、全て録音し、文字起こしを行った。インタビューを通じて得られた会話内容を元に、質的データの分析手法としてコーディング→カテゴリ化→テーマ抽出という3段階の分析を行った。まず、特に参照したい発言ごとに意味をもつ単位に区切りキーワード化、類似する意味のものをまとめてカテゴリ化した。最後に、カテゴリごとに、まとめとしてテーマ抽出を行った。

また、以後、「きっかけ」のカテゴリとして、まだ参加していないが、ボランティアに関心や必要性を感じている理由を「きっかけ[L]」（Latent）とし、参加するつもりがない、消極的・否定的な理由を「きっかけ[N]（Negative）」と区別する。さらに、継続に対して消極的・否定的な理由を「継続の理由[N]（Negative）」とする。

4.2 ボランティア活動歴の長い方（A氏、B氏）

質問内容は以下である。

① 回答者の基本属性の確認 [活動期間・年齢など]

① ボランティアに参加した理由「このボランティアに参加したきっかけはなんですか」

- ・何を見て誰から聞いて知ったか/なぜ行こうと思ったか
- ・その時の感情はどんなもの？

② 初めて参加した時のエピソード、または参加していて次も来たいと思ったエピソードを教えてください。

- ・継続のきっかけとなった出来事、継続していた理由
- ・その時の感情はどんなもの？

③ このボランティア活動に対して「もっとこうあったらいいな」と感じていた改善点、または次は行きたくないと感じたエピソードはありますか？

- ・継続を途絶えさせてしまう理由
- ・その時の感情は？

④ 理想のボランティアについて

[参加しやすい・したくなるボランティア、継続したいと思うボランティアとは何か]

- ・どんな宣伝、仕組みがあれば参加しやすくなるか
- ・どんな仕組みがあれば継続して行きたくなるか

4.2.1 A氏

(0) 聞き取り内容

以下、聞き取り調査の中で参考とした発言である。

時間	発言内容	キーワード	カテゴリ
7:40	あの広報がね、広報誌が三鷹の広報誌ってすごくカラフルで面白いんですよ。	<広報 みたか> <面白い>	きっかけ 1
	広報って言ったらこういう黒いインクでびっちり行政が〇〇などしましたっていうなんかお知らせ的な市報だったので全然興味を示したことがなかったんですけど	<モノクロ> <行政>	きっかけ 1
	三鷹にきたらカラフルだしイラストあり写真ありで市民の活動の紹介がすごく多いなと思った。	<カラフル> <市民の活動の紹介>	
	それで、ほら、古民家が出来上がる前の講座（※1）があったんです。	<講座の存在>	きっかけ 2
9:01	ちょうど、土曜日かなんかだったので仕事の合間でいけたので、	<都合が合う>	きっかけ 3
	くじ引いたらなんと私発表1番になっちゃって、えーと思いながらやったんです。	<少しの緊張> <驚き>	参加時の感情 1
	あ、自分で、あの、自分がどういう経歴をたどっ	<まとめファイル>	回答者の性格 1

	てきたかっていうのは捨てられないんです、だから全部とってあるの。 (古民家に関する昔からのファイルをまとめていた)	<真面目>	
14:40	これはすごい私「面白い」「勉強になる～」と 思っ(講座)	<面白い> <勉強になる>	きっかけ 2
17:20	で、講座に行くと、アンケートあるでしょ。そこで、もしこういうボランティアがあったら参加したいですか?っていう欄があったの。 で、YES としました。 そのためには、養成員講座を受けるっていう条件があったんですけど。	<きっかけ：講座> <養成講座>	きっかけ 2
21:03	私は三鷹のことは何も知らなかったの、三鷹のことを知りたいと思った。	<三鷹への好奇心>	継続の理由 1
21:20	私生まれ〇〇で、兼業農家だったの。ちょっと風景も似ていて、郷愁を誘うようなところがあった。畑があり、木があり、緑があり。古民家行ってみたらね。	<大沢の自然> <郷愁>	継続の理由 2
24:34	35 年とかずっと働いていたので、何もしない生活というのは耐えられなかったの、他のこともやってるんですけど、何か軸になるものとして、ボランティアがいいなと思ったんですね。	<活動性> <生活の軸>	回答者の性格 2
31:47	ボランティアとして、お祭りの時とかに参加者の人達に説明したりするとわかりやすかったなんて言われると、ああやってよかったなって。	<他者への共有> <達成感>	継続の理由 3
	あんまりこう人を求めて行きたいっていうタイプではないんですけど、		
	得体のしれないものには入っていきたくない という思いもありつつ、	<未知のこと> <恐怖心>	きっかけ 4
	やっていったら、満足感もあったし、その上で誰かのためになっているんだったらそれはそれで自分としてもやりがいがあるしね。	<満足感> <貢献> <やりがい>	継続の理由 4
	お友達が欲しくてっていうわけではないんです。	<コミュニティ> <友達>	継続の理由 5
33:36	元からいる人は地域のコミュニティ愛がすごく強いと思うんですよ。私なんかは本当によそ者だからそこに入れてもらえるとかは思っていないんだけど、活動上で繋がることはいいのかなと思っているので。	<昔からいる人> <コミュニティ愛> <活動上での繋がり>	継続の理由 5

34:22	知識欲っていうのかな。知らなかった三鷹の現実を知ったり、そこにはこういう昔の歴史があったり、っていうことを講座を受けて知って いって、	<知識欲> <好奇心>	継続の理由 1
	それはすごくいいものなんだ、だから残したいっていう気持ち、地域の人とは一緒かもしれない。	<三鷹の魅力> <残したい>	継続の理由 6
35:02	絶滅危惧種とかそういう言葉に弱い。	<絶滅危惧種>	継続の理由 6
35:47	長く住んでる人って外からきた人にはいどうぞってしないんじゃないかな。 古民家の中ではないかな（コミュニティの壁を感じたりは）。私自身もコミュニティを目的としてではなく、活動がメインなので。	<入りづらさ> <コミュニティ目的>	継続の理由 7
37:21	ボランティアっていうのは結局は営利を求めない団体なので、T シャツのことを販売したりするのは違うんじゃないかなあと思うんですよ。それは全然ボランティアのやることじゃないと思う。	<非営利>	ボランティアへの価値観
	永久的に販売するなら違う団体を用意するべきなんじゃないの。ちょっとモヤモヤする。	<別団体> <モヤモヤ>	ボランティアへの価値観
	販売ねえ。わさびもたくさん取れたらどうするんだなんて言っている人もいるけど、そこはボランティアがやることと別として考えなきゃじゃないかな。	<販売> <否定的>	ボランティアへの価値観
44:36	寒いのに暑いのになんでやるの？って、結局なんか、自分のほっとする場所がある。友達っていう意味じゃなくて、同じような思いで、保全させようって思いで活動する仲間がいるっていう。	<「仲間」の存在>	継続の理由 5
45:47	地域ポイント（※2）ってもらえるでしょ。なんかポイントもらえると嬉しいじゃない。ほんとに 300 円でも。なんかメリットあるってのは励みになるかな。 多少そういうなんか還元されることで、自分が地域に役に立ってるなって。	<地域ポイント> <励み> <嬉しい> <地域への貢献> <貢献の実感>	継続の理由 4 継続の理由 4
50:38	大沢って結構過酷だと思うんです。 自分にあうボランティアを選べばいいと思います。	<作業の過酷さ> <自分にあう>	継続の方法 1 継続の方法 1
52:24	自分自身がじっとしてられないたちなので、なんかやりたいというか。	<能動的活動への欲求>	回答者の性格 2

53:28	仕事人間だったんですけど、その時間をボランティアに当ててる。	＜活動性＞	回答者の性格 2
-------	--------------------------------	-------	----------

※1 講座とは

2017 年三鷹市大沢の里古民家復元工事時に市民向けに開催された講座「歴史・文化財連続講座（学芸員と学ぶ古民家の魅力）」のこと。ボランティア養成を目指す講座や活動の出発点的なものになっている。

※2 三鷹地域ポイント

三鷹市が独自に発行する地域通貨のこと。一部ボランティア活動や地域イベントで配布されている。

(1) 回答者の基本的属性と性格

A 氏は、長年地方公務員として勤務した後、2014 年に三鷹市に転居した。子供達の独立等で一人暮らしになったのを機に、親戚が近くに住むこの地域に移住したためであった。A 氏は今回の聞き取り調査の際に、今までの三鷹大沢わさびに関する資料を集めたファイルを持参しており、これは、今回のインタビュー調査のために用意していた訳ではなく、以前から続けていることであると分かった。こうした真面目さが、継続の一因となっていると考察できる。

また、A 氏は、ボランティア活動が生活の軸になっているとも発言した。仕事をリタイアし、以前よりも時間に余裕のある A 氏にとって、ボランティア活動に参加することが、A 氏の活動的な性格とマッチする適切なものだったのだと考えられる。

(2) きっかけ

聞き取り調査の中で分かった A 氏のボランティアへの参加のきっかけに関する感情や出来事は、主に 4 つに分類できる。

① 広報みたか

A 氏が三鷹市に引っ越して驚いたことの一つに、三鷹市が発行する「広報みたか」がカラー印刷であること、市民の活動も取り上げていること、があったそう。そんな広報誌を、読み物として＜面白い＞と思うようになったことが、三鷹市への活動への興味を生んだことが考えられる。

② ボランティアが始まる前のイベントへの参加

広報みたかで、古民家で開催される市民向けの講座の存在を知った A 氏は、未知のことへの＜恐怖心＞を抱えつつも、＜面白い＞＜勉強になる＞といった好奇心から参加を決めることになった。

③ 生活環境の変化による時間の余裕

A 氏は本職を退職し、アルバイトとして勤務していたため、以前と比較してある程度時間に余裕が生まれていた。このような生活環境の変化による時間の余裕が、参加のきっかけを可能にした。

(3) 継続の理由

聞き取り調査の中で分かった A 氏のボランティアの参加の継続の理由に関する感情や出来事は次の 6 つに分類できる。

① 三鷹市への興味

A 氏は、ボランティア活動を通して知ることのできる三鷹市の歴史や現実への＜好奇心＞＜知識欲＞を感じており、それが継続的な活動への参加へと結びづけられている。

② 大沢の自然

古民家で行われた講座（※1）で初めて大沢に訪れ、その自然の豊かさに、A 氏の出身地を思い出させるものがあつたと話し、郷愁を誘うその地に、魅力を感じたことが、A 氏の継続の一因となっている。

③ 小さな達成感

ボランティアとして三鷹市大沢について外部の方に話す機会があり、そういった機会に相手に「わかりやすい」と褒めてもらう、などといった成功体験が、小さな達成感へとつながり、活動のモチベーションにつながっていると言える。

④ 地域への貢献を感じることによる満足感

活動終了時に配布される、みたか地域ポイントが、地域への貢献の実感になっているようだ。こうして、「自身が地域に貢献していること」への実感が、やりがいへとつながり、A 氏の継続のモチベーションとなっている。また、単純に金銭的な少しのメリットがあるということに＜嬉しさ＞や＜励み＞を感じているとも発言している。

⑤ 仲間の存在

A 氏はボランティア活動によってできた新しいコミュニティの存在についても言及している。元から三鷹市に住んでいた人たちと、三鷹大沢わさびを保全するという共通の目的をもって活動していることで、そこに仲間意識が生まれていると感じているようだ。

⑥ わさびを残したいという気持ち

今やほとんど残っていないいわば「絶滅危惧種」である三鷹大沢わさびを、保全しなければ、という危機感のようなものを持っており、活動の原動力になっていると話す。

⑦ コミュニティ目的ではない

あくまでわさびの保全のための活動の延長上であり、コミュニティの形成を目標として活動している訳ではないとも主張している。

(4) わさびやTシャツの販売に対して

聞き取り調査の中で分かった、A 氏のボランティアへの価値観として、わさびボランティアの今後のあり方について触れたい。昨年行われた三鷹大沢の里古民家での古民家祭りにて、そのわさびを元としたオリジナルTシャツをボランティア内の有志で作成し、ボランティアメンバーはそれを着て、お祭りに参加した。すると、そのお祭りに参加した外部の方から「あれは販売していないのか」という販売を望む声があり、これに対して、同ボランティア内で、少し意見が分かれているようである。A 氏は、Tシャツの販売に対して、ボランティアは非営利の団体であるから、販売をするなどして利益を上げるべきではないという考えをもち、このような動きに対して＜モヤモヤ＞を感じているようであった。さらに、わさびが復興したのち、そのわさびを販売することに対して、それはこのボランティア団体がやるべきことではないと主張していた。

4.2.2 B 氏

(0) 聞き取り内容

以下、聞き取り調査の中で参考とした発言である。

時間	発言内容	キーワード	カテゴリ
0:49	わさびは岐阜県とここにしか残ってない。これじゃいけないと思って、私も勉強しなそうと いうことになってボランティアに参加することにした。 今思うのは、大沢わさびを海外に広めていた	＜危機感＞ ＜希少性＞ ＜自発的関心＞ ＜目的の変化＞	きっかけ 1 継続の理由 1

	い。	<わさびへの期待>	
02:55	農家の、わさび農家の作業の大変さをみてるから、それで、民間企業に就職しました。	<作業の大変さ> <進路選択>	背景 1
03:20	だけど、大変さは農家でも企業の方でも一緒だということがわかった。	<気づき> <労働の本質>	背景 1
	やはり、会社を辞めて、その三鷹市のボランティアの方々、一生懸命古民家を残してもらって、大沢わさびを絶やしちやいけないという活動をしてるんで、何かの、力になればいいなという思いで活動始めました。	<共感> <使命感>	きっかけ 2
	大沢わさびの知名度を広報活動としてやっていきたいなあとというふうに変わってきましたね。	<役割変化> <広報>	継続の理由 1
04:48	やっぱりその、環境。環境を守っていきたい。今現在、大沢にしかないわさび。岐阜県の山奥にしか残っていないということが研究で明らかになった。絶やしちやいけないなあって感じて。	<希少性> <使命感>	きっかけ 1
05:13	嬉しいですよ。(大沢わさびプロジェクトに対して) 参加されてる方も一生懸命だし、わさびを復興されるような活動をしているんで、やっぱり嬉しいですよ。	<喜び> <誇り>	活動者への思い 1
07:26	今ね、インバウンドの訪問、問い合わせが伸びてるんですよ。結果はわかりませんが、少しでも、三鷹市にはお金が落ちるんじゃないかと。	<経済効果への期待>	継続の理由 1
16:40	販売できれば販売していいんじゃないかと思っています。たくさんの人に来てもらえば、宣伝にもなりますし。三鷹市にも、ファッションとしていいと思います。	<営利化賛成>	営利化に関して
18:47	その当時、生活してた頃、小学生とか、中学生のことは、作業の大変さとかをみてるから、そっから逃げてたっていうのは、で、一般企業に就職したって感じですかね。	<作業の大変さ> <就職>	背景 1
30:17	今その、定例作業は第一土曜日にあるじゃないですか。で、ICUとかその他の作業は平日にある。	<時間の都合>	継続の理由 [N] 1
34:33	今、夏場だとね、作業の 9 時 10 時とか、35 度以上じゃないですか。結構きついと思いますね。	<労力的負担>	継続の理由 [N] 1
	(コミュニティの壁について) 昔からいる人って、私くらいじゃないですか。あとはわさびに興味を持っている人が参加しているという形なので。 ただ、毎回参加される方は固定されていますよ	<固定メンバー> <新規難>	継続の理由 [N] 2

	ね。 やっぱりあの、その人に聞かないとわかんない ですね（笑）		
36:25	ただ、たえず人を入れる取り組みはしています。水車古民家祭りとかね。	<新規獲得の工夫>	きっかけ[N]1（取り組み）
38:01	作業が、普通の人だとちょっと厳しいですよ ね。（暑くて）	<労力的負担>	継続の理由[N]2
40:15	登録している人が 100..くらい、いると思うんで すけどねえ。平日は特に少ない。ただ、こうし た活動があるということをまず知っておいて もらうことが大切。	<リピーターの少なさ> <作業の過酷さ>	継続の理由[N]2（組み み）
42:28	いいと思うのは、終わってからミーティングを するじゃないですか。こういう活動してます よっていう情報交換の時間。あれはまあ、いい なって思ってますよね。	<コミュニケーションの場>	継続の理由 2
49:21	（話しづらいから次から参加しないのでは？ という仮説に対して）きいてないので、わかり ませんが、ないと思います。	<居心地についての認識>	継続の理由[N]2（認識）
49:53	広報活動っていうのを、単発的じゃなくて、継続 的っていうか。（大沢コミュニティセンターに広 報みたかを置いて行っても、全然減らないんで すよ。）色々な場面、方法で行う必要がある。	<広報の拡大>	きっかけ[N]1
50:42	結局、その、本人の意思だと思うんです。まず、 きてもらうための活動が必要だと思います。そ の人数を増やさないと。	<個人の意思>	きっかけ[N]1
52:54	（継続的な参加を促す点に対して）難しいとこ ですよ。本人の興味っていうか。作業自体の 大変さもあるし。	<最初のきっかけを重視> <継続は本人次第>	継続の理由[N]2

（1）回答者の基本的属性と性格

B氏は、わさびボランティアの活動場所である三鷹大沢の里古民家のわさび田で長年わさびを栽培してきた箕輪家の方である。幼少期にその作業の大変さをみてきたことから、わさび田を継ぐのではなく、一般企業に就職し、長年の仕事を終えて、現在は先祖代々のわさび栽培の知識を再度掘り起こし、他ボランティアと共に、わさびボランティアの一員として活動している。

（2）きっかけ

聞き取り調査で分かったB氏のボランティアへの参加のきっかけは、主に二つに分類できる。

① 三鷹大沢わさびの希少性の判明とそれに対する使命感

三鷹大沢わさびが DNA 鑑定により、日本の現存する三種のどれにも属さない希少種であるということが判明した。この事実が、箕輪家の一人として、後世に残していかななくてはいけない、というB氏の使命感に繋がった。

② わさびボランティア活動者の姿勢

わさびボランティアの活動者の懸命な姿勢が、自分もその一員として活動に貢献したいという共感の思い。

(3) 継続の理由

聞き取り調査で分かった B 氏のボランティアの継続の理由は、主に二つに分類できる。

① 三鷹大沢わさびへの期待と展望

B 氏は、三鷹大沢わさびという存在を三鷹市外はもとより、将来的には海外にも広めていきたいという展望を抱いている。地域資源の価値を多くの人に知ってもらいたいという思いが B 氏の活動のモチベーションとなっていると考えられる。

② ボランティア内での対話の時間

わさびボランティアでは、活動終了後にお茶を飲みながら活動者同士が語らう時間が設けられている。そういった交流の場に対して心地よさを感じており、活動の楽しみの一つとなっている。

(4) 営利化に対して

B 氏は三鷹大沢わさびの営利化に対して、肯定的な姿勢を示していた。B 氏は三鷹大沢わさびの価値をより多くの人に知ってもらいたいという展望を抱いているため、その延長上に販売という形があっても構わないと考えている様子であった。

(5) きっかけと継続のネガティブ要因

B 氏によれば、ボランティア活動への登録は約 100 名いるものの、実際に作業に参加するメンバーは固定化されており、新規の活動者が増えない状況が続いているという。B 氏は、活動の継続よりも、まずきっかけを重視するべきであるとの姿勢を示していた。

① きっかけ作りの取り組み

例年行われている古民家でのお祭り（通称：水車古民家祭り）でのボランティア活動の宣伝や、古民家周辺に立ち寄った人への積極的な声掛け、広報みたかを周辺大学に設置するなど、参加のきっかけを生むための工夫を行っている。

② 労力的負担

B 氏は、わさびボランティアの作業の過酷さや、作業日が毎月の定例作業以外は平日であること、継続参加へのハードルとなっていると B 氏は指摘する。

③ 排他的空気感の否定

活動歴の長いメンバーによる既存のコミュニティがあることが、新規参加者にとっての障壁になっていると B 氏は捉えていない。

4.3 ボランティア活動歴の無い方(C 氏、D 氏)

質問内容は以下である。

① 回答者の基本属性の確認 [職務内容・年齢・ボランティア経験の確認]

① ボランティア活動へのイメージ・考えについて

[三鷹市の取り組みへの興味の有無/参加しづらい理由等]

- ・三鷹市のボランティア活動についての知識の有無
- ・ボランティア活動のイメージ
- ・ボランティア活動に参加しようと思った経験

② 理想のボランティアについて

[参加しやすい・したくなるボランティア、継続したいと思うボランティアとは何か]

- ・どんな宣伝、仕組みがあれば参加しやすくなるか
- ・どんな仕組みがあれば継続して行きたくなるか

4.3.1 C氏

(0) 聞き取り内容

以下、聞き取り調査の中で参考とした発言である。

時間	発言内容	キーワード	カテゴリ
05:44	仕事としてこういうの(自治体職員)をやっているけれど、地域に興味があるかと言われるとあまりない。	＜地域への興味＞	きっかけ[N]1
	ちょっとドライな言い方になるけれど、仕事としては対価をもらっているわけじゃない。公務員だからってボランティアに興味があるというわけじゃない。	＜対価の有無＞	きっかけ[N]2
	市の広報は仕事としてみる。あくまで、仕事のことの、アンテナのはり方としてみてる。	＜仕事＞	背景 1
07:52	地元の人と積極的に関わりたい、とかはあまりならない。人とか深く、関わろうとか、そういうタイプじゃない。	＜他者との積極的関与への抵抗感＞	きっかけ[N]3
08:59	まず、なんかやろうというものがないというか。レストランに行って、メニューがあって、この中からどれを選ぶとか、そういう感じじゃないから。たくさんあるかどうかもわからない。活動せざるを得ないってなった時でも、その内容も見えないし。	＜ボランティアを網羅したツールの無さ＞	きっかけ[N]1
14:57	自分の興味のあることだったらやってみてもいいと思う。自分はすごい野球が好きなのね、球場の外とかのボランティア。自分の時間を割いてやるボランティアなら。なんかしらメリットがないと。	＜興味＞ ＜メリット＞	きっかけ[N]1 きっかけ[N]2
18:44	そこ(興味)が少ないから、ボランティア活動っていうのに繋がらないのか。	＜興味の幅の狭さ＞	きっかけ[N]1
	なんかこう、田舎の風景とかいうのにも全然惹かれない。そこに自分が自ら入って行って、なんか土いじりします。とかいうのに自分の時間を割くのは。	＜自然環境への関心の低さ＞	きっかけ[N]1
20:41	コミュニティに入っていくこと自体が好きじゃないっていうか。初対面の人と話すの	＜コミュニティ参加への抵抗感＞	きっかけ[N]3

	がそんなに。得意な人もいないと思うけれど、自分ではそんなになって思ってるから。		
29:54	就職して、でも別に、会社があるから、職場の人がいるから、生活の不安とかなかった。1 日ずっと家にいると近所の人と仲良くするとか、そういうことではなかった。	<生活基盤の安定による地域との関係構築の必要性の低下>	きっかけ[N]3
32:55	自分のイメージでは、対価があるとして、活動に対して、地域ポイントや交通費は出るけれど、それでは対価に見合わない。特典があるからといって、やろうとは思わない。	<無償活動への消極性>	きっかけ[N]2
34:22	仕事としての自分と個人としての自分があって。仕事としての自分にとってはコミュニティってめっちゃめっちゃ大事だと思うのね。災害時もそうだし、あの、子供の見守りとかもそうだし。むしろデメリットの方がないぐらいの意味だと思うんだけど。	<職務上のコミュニティ重視>	きっかけ[N]3
	ただ現実問題として、自分に置き換えた時に。自分、家族もいるし、子供もいるし、話相手もいるし、別になんか、困らないなあ、と。	<家庭内での充足感>	きっかけ[N]3
36:47	きっかけというか、必要性がない、感じられないというか。		きっかけ[N]3
38:20	一年前に能登の地震があったじゃないですか、流石にあれをなんかテレビとかでみると、なんかもっとどうにかできないのか、という思いがあった。	<共感と実行のギャップ>	きっかけ[L]1
	結局それもそう思うけど、自分の生活を犠牲にしてまで、心を揺らされるけども、何か動きを起こす気にはならない。	<犠牲>	きっかけ[N]2
41:28	道に迷ってる人は助けたりするけど、人のためになりたくないわけじゃないんだけど	<小規模支援には積極的>	背景 3
	コミュニティっていうのがあるのかもしれない。わざわざいろんな人たちと関わって、なんか大それたことをしたいわけではない。	<大きな負担を避けたい傾向>	きっかけ[N]2
42:35	やっぱり時間じゃないですか。道に迷ってる人を助けるとかはせいぜい 2、3 分。半日とか 1 日とかはちょっと。	<時間的制約>	きっかけ[N]2
45:10	どうにかならないのかな、という気持ち。テレビで見て。(能登半島の地震に対して)		きっかけ[L]1
55:08	育ってきた環境ってのもあるんですかね。周りの人たちにそういう人がいないからかも。	<環境要因>	きっかけ[N]3

(1) 回答者の基本属性と性格

C氏は三鷹市在住歴15年の男性で、現在は市役所の職員として勤務しており、業務の一環としてNPO法人に派遣されている。年齢は38歳である。自治体職員という立場から、ボランティアに関する制度的な知識は一定程度持ち合わせている。しかし、そうした知識は主に業務上得られたものであり、自身の関心や行動には直結していない様子がうかがえる。また、能登半島の地震や、道に迷っている人を助けたいという、他の人の役に立ちたいという思いも一定程度抱いているようであった。

(2) きっかけのネガティブ要因（カテゴリ：きっかけ[N]）

聞き取り調査で分かったC氏のボランティアのきっかけのネガティブ要因は、主に3つに分類できる。

① 興味・関心の欠如

C氏は自身の興味の幅が狭いことを自覚しており、ボランティア活動への関心を持ちにくくしている一因となっている。

② 対価・メリットと時間的制約

地域ポイントや交通費などといった報酬では参加するモチベーションにならないと考えており、あくまで自分の生活が優先であること、日々の生活を優先すべきだという価値観をもっている。そのため、半日～1日かけてまで、ボランティア活動に参加するには、それなりのメリットが必要であると考えている。

③ 新たな関わりの必要性の欠如

C氏は家庭内での充足感を感じており、地域活動へ新たに参加し、新しい関わりを得ることに必要性を感じていないようであった。

(3) ボランティアに参加したいと思ったきっかけ（カテゴリ：きっかけ[L]）

C氏が、実際にはボランティアに参加していないが、参加したいと思った要因は、主に1つである。

① 能登半島の地震

C氏は、テレビニュースで、能登半島地震の報道を目にした際、何か手助けになりたいという思いに駆られたという。このような社会的な緊急性を要する問題に対して、C氏の中には他者貢献の意欲が芽生えることが確認できた。

4.3.2 D氏

(0) 聞き取り内容

以下、聞き取り調査の中で参考とした発言である。

時間	発言内容	キーワード	カテゴリ
3:54	私もう年齢がもう 50 も過ぎたので、若い頃は、ボランティアがハードルが高いというか、ちょっと特別なものって感じがしたんですけど、	<心理的ハードル>	きっかけ[N]1
	なんかこの年齢になると、ちょっとやっておかなきゃいけないかな、というふうに思います。	<将来への不安>	きっかけ[L]1
	もちろん地域に還元するっていうこともあるんですけど、地域と繋がっていくっていうことが必要になっていく年代でもあるので。	<地域との関わりの必要性>	きっかけ[L]1

	特に私なんかは今独身なんですけれど、親としての繋がりもないですし、そういう点で、本当に地域としての繋がりがないんですよね。	<独身> <孤立への不安>	きっかけ[L]1
	これがもし役所に勤めていなかったら、地域に放り出されるっていう感覚って怖いなって思ったりします。	<怖い>	きっかけ[L]1
5:48	まず時間があって、何かその活動意欲があって、そういう感じを持っている人が、やるものっていうのがありました。	<活動意欲> <時間> <他人事感>	きっかけ[N]1
	そんなに切羽詰まって必要だと思ってなかった。必要性をあまり感じなかった。	<切迫感の欠如>	きっかけ[N]2
6:44	50 過ぎてからですね。（ボランティア活動をするべきと思ったタイミング）	<時間的契機>	きっかけ[L]1
	例えば私が高齢者になった時に、誰も知らない中で、福祉サービスを受けるというよりは、同じ年代の人たちと繋がり合いを持ちながら、まあ、自分がもしダメになった時にサービスを受けるというよりは、自分がこうサービスをする側でもあり、受ける側でもあり、というのが、なんとなく自分としても心地いいんじゃないかなって思ったんですよね。	<共助の安心感>	きっかけ[L]2
08:44	昔、男の人が定年退職して地域の方に戻ると、それで奥さんと一緒に歩くと、みんな奥さんの方に挨拶して自分にはしてくれないっていう笑い話してたら、あれ自分もそうなるなあって。誰も挨拶してくれないんじゃないって（笑）	<孤立への不安>	きっかけ[L]1
09:39	誰かがいて、その中で一人になるのはいいんだけど、だけどほんとの一人って怖いなって。	<完全な孤独の恐怖>	きっかけ[L]1
10:29	いろんなところに興味がある人、フットワークが軽い人、高尚なものがあるというよりは、ポンって動ける人（ボランティアをしている人へのイメージ）	<機動力への劣等感>	きっかけ[N]1
	私はどちらかというとポンって動けないので。		
	ボランティアっていても、趣味の活動でも、私にとっては同じようなハードルなんですよ。ポンって動けないので。	<行動ハードルの高さ>	きっかけ[N]2
12:50	ボランティアの経験っていうのも、あった方がいいな。なんかやっという方が、自分のためになるというか。自分が楽になるというか。	<経験の必要性>	きっかけ[L]2

	社会に溶け込める自分になる。	＜社会への参加願望＞	きっかけ[L]1
16:05	一人では生きていけないって思ってるんです。	＜一人では生きていけない＞	きっかけ[L]1
16:30	ずっと躊躇ってますね。ああやってみたい なって思っても、なんかこう、一歩が踏み出 せないんです。	＜ためらいの継続＞	きっかけ[N]2
	まだ切羽詰まってないからですかねえ。今、 仕事と家で大丈夫かなあって。	＜切迫感の欠如＞	
18:09	何かこう人に助けを求めなきゃいけない時 に、ああ私って自分は何もしてないのに、人 に助けを求めるのかって思っちゃうんじゃない かって。結構自分勝手なんですよ。ボラ ンティアも自分のため。	＜共助の安心感＞	きっかけ[L]2
19:37	母子家庭で、ずっとこう、お母さん方に体操 を教えるという仕事をしていて、定年退職し てからも、ボランティアのような形で教えて いて。地域との繋がりがいいなって。	＜地域参加への好印象＞	きっかけ[L]1
23:55	私は、動物が好きなんです。だから、動物 に関するボランティアかなあ。そういうのに、 参加できたらいいなあというふうに思いま す。	＜関心対象（動物）＞	きっかけへの展望 1
	大好きなんです。（動物）		
	高齢者の方と何かやるとか、そういうのもい いかなあ。	＜関心対象（高齢者）＞	
26:21	後ろから誰かがドーンと押してくれれば。な んかこう、偶発的にこう。	＜偶発的きっかけ待ち＞	きっかけ[N]2
	腰が重いところがあるので。	＜行動ハードルの高さ＞	きっかけ[N]2
27:50	予定が入ってると、動けないタイプなんです よ。土曜の午後から、ボランティア活動入っ てたら、午前も何もできない。	＜行動の制約＞ ＜生活リズム＞	きっかけ[N]2
	だから、それが日常化すると、いいのかなあっ て思いますね。	＜日常化の希望＞	継続への展望 1
	高齢者になると、時間ができるので、そこに も余裕があるかなあ。	＜時間的余裕＞ ＜将来希望＞	きっかけ[L]1
30:54	ボランティアに限らず、新しいことをやるこ とにハードルを感じる。	＜新規行動への不安＞	きっかけ[N]2
33:41	特典があるから、というのは、特にないです ね。特典というよりは、動ける自分とか、活 動している自分を魅力に感じるタイプ。	＜非営利＞ ＜金銭以外の目的＞	（きっかけ[L]）
	逆にお金とかもらってる自分に矛盾を感じる かも。	＜無償性の価値＞	

41:05	例えば、高齢者の人に席を譲ると、巡り巡って、母親に席を譲ってくれるんじゃないかと思っています。	<循環的善意> <共助意識>	きっかけ[L]2
	ボランティアも、私のために、それがさらに他の人のためにもってという認識。	<自己利益と利他の両立>	きっかけ[L]2
46:18	広報とかで継続的に途切れない情報を流してくれると、大縄跳びみたいな感じで、いつでも入れるとありがたい。	<情報の継続性> <参加のしやすさ>	きっかけへの展望 1
48:16	話ができる。自分で背負わない。何かあったときに気軽に相談できる関係があるのって大事。	<支え合い> <関係性の安心>	継続への展望 2

(1) 回答者の基本的属性

D氏は三鷹市在住歴20年以上の女性で、現在は市役所の職員として勤務している。年齢は52歳である。高齢者への給食サービス、大沢わさびボランティアの存在は、職業柄、認識があった。さらに、コミュニティセンターが発行する広報誌を通して、ボランティアの存在を認知しているとの発言があり、ボランティア活動への認知度は高いと考えられる。

(2) きっかけのネガティブ要因（カテゴリ：きっかけ[N]）

聞き取り調査で分かったD氏のボランティアのきっかけのネガティブ要因は、主に2つに分類できる。

① ボランティア活動への心理的ハードル

D氏はボランティア活動に対して、「高い意欲を伴う行動」「特別な意識を持った人が行うもの」とであると捉えており、そのような心理的なハードルが、D氏の参加意欲を妨げている要因の一つとなっている。

② 新たな行動への抵抗感

D氏は、新しいことを始めることに負担を感じやすい傾向があり、現在の生活リズムにボランティア活動が加わることに抵抗を感じている。このような行動面でのハードルも、参加を躊躇う一因となっていると考えられる。

(3) 参加したいと考えている理由（カテゴリ：きっかけ[L]）

D氏が、実際にはボランティアに参加していないが、参加したいと思っている要因は、主に2つである。

① 加齢に伴うつながりの弱化

D氏は、年を重ねるにつれて、自身が退職後、地域とのつながりが無くなることに恐怖心を感じている。その地域とのつながりの一つの手段として、ボランティアを視野に入れている。

② 共助的意識の強さ

D氏は、「自分が助けを必要とするときのためにも、他者への貢献を今のうちから行っておきたい」という思いをもっており、そのような共助意識がボランティア参加への動機付けになっている。金銭的な特典が得られることが、ボランティアに参加するきっかけにはならないと、金銭的な報酬ではなく、他の人と直接または間接的に支え合う関係そのものに価値を見出していると考えられる。

4.4 三鷹市大沢のボランティア活動をやめることにした方(E氏)

質問内容は以下である。

① 回答者の基本属性の確認 [活動期間・年齢など]

- ① このボランティアに参加した理由はなんですか。
 - ・何を見て誰から聞いて知ったか/なぜ行こうと思ったか
 - ・その時の感情はどんなもの？
- ② 初めて参加した時のエピソード、または参加していて次も来たいと思ったエピソードを教えてください。
 - ・継続のきっかけとなった出来事、継続していた理由
 - ・その時の感情はどんなもの？
- ③ このボランティア活動に対して「もっとこうあったらいいな」と感じていた改善点、または次は行きたいと感じたエピソードはありますか？
 - ・継続を途絶えさせてしまう理由
 - ・その時の感情は？
- ④ 理想のボランティアについてディスカッション
 [参加しやすい・したくなるボランティア、継続したいと思うボランティアとは何か]
 - ・ボランティア活動とは
 自分が活動したいと思うこと「自発性」
 経済的な報酬を目的としない「無償性」
 他人の利益と自らの動機がつながる「利他性」の三つを全て満たすもの
 - ・どんな宣伝、仕組みがあれば参加しやすくなるか
 - ・どんな仕組みがあれば継続して行きたくなるか

4.4.1 E氏

(0) 聞き取り内容

以下、聞き取り調査の中で参考とした発言である。

時間	発言	コード	カテゴリ
01:23	まずね、建築物としての古民家に興味があつて、で、そのボランティアの説明会に行ったんですね。	<関心対象（古民家）> <説明会参加>	きっかけ 1
	そこで、知り合いがいて、わさびのボランティアのことを聞いて、で、そこで、関われば、単純にわさび好きだから食べられると思ったの。ただいまだに実現できてません。	<知人からの紹介> <わさび好き> <食べたい> <期待とのギャップ>	きっかけ 2 継続の理由 [N] 1
01:47	活動の内容は全然予想外でしたね。わさびを栽培すれば、食べられると思ったら 0 からスタートだった（笑）	<期待とのギャップ> <認識のズレ> <労力への驚き>	継続の理由 [N] 1
02:37	楽しかったよ。自分がちょっとお手伝いしたらわさび食べられる、と思って。ああ、面白いものに参加できるぞって思ったわね。	<活動の楽しさ> <活動への好奇心> <報酬期待>	継続の理由 1
03:14	初めての時は、これからの先が見えなかった。	<先行き不安>	継続の理由 [N] 2
	でも、大沢の土地での爽やかな気分は覚えてま	<自然環境の快適さ>	継続の理由 2

	すね。		
03:44	ボランティアの方々のお人柄がすごく良くて 一生懸命作業をしている中で多くの事を学ばせてもらいました。	<仲間の存在> <人間関係の良さ> <自身の向上>	継続の理由 3
	無償の体力労働であるっていうこと。5000 円くれるからきてくださいって言われたら行かないと思うの。でも無償だから、自分に対してあよかったと思えたのかもね。今日もちょっと働いたぞみたいなの。	<無償性の価値> <自己肯定>	継続の理由 2
05:30	そんながっかりはなかった。これはすぐは食べられる、とは思わなかったけれど、いずれ食べれると思ったのよ。	<ポジティブな認識> <長期的視点>	継続の理由 [N] 1
05:48	汗と汚れよね。作業後の。なんか役に立ったかなあっていう小さな自己満足。	<身体的負担> <達成感> <自己満足>	継続の理由 2
	私の年齢になると、周りの人たちとの関わりが薄くなってくるのね。けど、ここには私の居場所があった。いけば、ああおはようございまして作業できる、居場所が楽しかった。	<居場所感> <挨拶文化> <人とのつながり>	継続の理由 3
08:14	元来別に植物好きな訳でもなかったの。〇〇さん（ボランティアを担当している生涯学習課の方）とかにもやってくださいとか言われて、えーとか言いながら、だから、自分の意思を先頭に立てて、やってきた訳じゃなくて、なんとなく、やってきたって感じ。	<周囲からの誘い> <消極的参加>	きっかけ 3/継続の理由 4
10:45	単純にね、ものすごい暑い時は行きたくなかった。	<体力的負担>	継続の理由 [N] 3
12:02	一つ言えるのは、指揮系統は一本化、そしてボランティアの人に意思がきちんと伝わるというわね、とは思っています。	<指揮系統の一本化> <運営の明確化>	継続の理由 [N] 2
	複雑なことは言えませんが、言えることは対人関係、とだけです。	<対人関係の課題>	継続の理由 [N] 4
13:19	何年もやって、生活の一部になってた。	<継続年数> <習慣化>	継続の理由 5
	私にとって、生活の中で大きい位置付けだったことは事実。	<生活への組み込み>	継続の理由 5
15:32	私はスポーツが好きなの。元来そういう活動をする感じじゃなかったのかもしれない。	<適性>	継続の理由 [N] 5
19:08	売るか売らないかを議論する前に、取れるか取れないかでしょ。（わさびの販売に対して）	<現実的判断>	ボランティアへの価値観
20:13	それはそれで嬉しい。（地域ポイントについて）	<特典の肯定>	（継続の理由 3）

32:24	矛盾してるわね（笑）	歓迎のムードが、今は、無いのよ、全く。親切　＜新規参加者への壁＞ であるべきなんだと思うの。そのムードが、必　＜排他的空気感＞ 要。もっと積極的に歓迎するのが重要よね。	継続の理由[N]6
-------	------------	--	-----------

(0) 回答者の基本属性と性格

E氏は、わさびボランティアに参加して5年が経過している三鷹市在住歴は約50年の女性であり、年齢は74歳である。わさびボランティアまでは地域活動の経験は全くなかった。2025年現在は、ボランティアへの参加を中断している。聞き取り調査でのE氏からは、フットワークが軽く、明るい人物像が伺えた。

(1) きっかけ

聞き取り調査で分かったE氏のボランティアへの参加のきっかけは、主に3つに分類できる。

① 三鷹大沢の里古民家の建築的関心

E氏が建築に興味があり、古民家で行われるイベントへ参加したことが、わさびボランティアを知るきっかけとなった。

② わさびへの関心

E氏はわさびを食べることが好きであり、ボランティアへの参加を通して三鷹大沢わさびを食べられるかもしれないという期待が、参加動機の一つとなった。

③ 周囲からの誘い

知人やボランティア活動を管轄している三鷹市スポーツと文化部生涯学習課職員から声を掛けられたことも参加の要因となった。E氏自身は「えーとか言いながらやってきた」と語っており、必ずしも自発的とは言えない消極的なきっかけでもあるといえる。

(2) 継続の理由

聞き取り調査で分かったE氏のボランティアの継続の理由は、主に5つに分類できる。

① 活動自体の魅力と期待

E氏にとって、三鷹大沢わさびという存在が好奇心を掻き立てるものであった。「活動を通していつかはわさびを食べられるかもしれない」という期待も、継続の要因であった。

② 無償の体力労働の達成感

三鷹市大沢の東京都郊外では珍しい自然の中で、汗を流し、手を汚して活動することで、社会貢献の実感と達成感が、活動継続に寄与した。

③ コミュニティとのつながり

年齢を重ねるにつれ、人との関わりが希薄になりつつあったE氏にとって、「参加すれば、そこには挨拶を返してくれる仲間がいた」というふうに、活動の場で交わされる挨拶や交流が心地よく、古民家でのボランティアが「心地の良い居場所」として機能していた。

④ 周囲からの声かけ

E氏はA氏、B氏と異なり、明確な使命感をもって参加していたわけでは無いものの、知人からの声掛けに応える形で継続していた面がある。

⑤ 日常生活への定着

その継続年数から、ボランティア参加がE氏にとって日常的な習慣となり、ボランティアへの参加は当たり前のこととして根付いていた。

(3) 活動の中断のネガティブ要因

E 氏が活動を中断するに至った要因は、以下の通りである。

① 期待とのギャップ

当初は軽く参加することでわさびを食べられると考えていたが、実際には復興に長い時間がかかることをしり、その先の見えなさに驚いたようだ。ただし、これは E 氏の活動の中断の直接的な要因ではなく、活動を継続すればいつかは食べることができるだろう、とポジティブに捉えたようである。

② 対人関係

詳細については本論では伏せることとするが、E 氏は「対人関係で少しトラブルがあった」と述べており、それが活動を中断する決断の直接的な要因となったと考えられる。

③ 昔から参加してきた人たちの排他的空気感

E 氏は、わさびボランティアの活動が続いていく中で、自分を含め古くから参加している方の中である程度のコミュニティができてしまい、新規参加者が、そのコミュニティに入っていくづらいことを指摘した。

5 本研究を通して分かったことと三鷹市への提案

5.1 三鷹市大沢のボランティア活動に関わる人の「きっかけ」と「継続の理由」

5.1.1 きっかけ

A 氏、B 氏、E 氏からの聞き取り調査と、さらにボランティアをしたことのない C 氏、D 氏の比較より、わさびボランティアの活動のきっかけとして挙げられる要因は、主に以下である。

① 「古民家」「三鷹大沢わさび」への好奇心・興味

自身の住んでいる地域にある、その地域特有の魅力に惹かれたことが、ボランティアの参加のきっかけとなっていた。反対に、古民家やわさびなど、ボランティアの活動に興味の方向性が向いていない C 氏、D 氏には参加のきっかけが生まれていなかった。

② わさびを残していかななくてはならないという使命感

三鷹大沢わさびという希少種を、自身の手で守らなくては、という使命感を感じ、そこに一種の緊急性を感じていることが、参加のきっかけとなっている。

③ 広報みたかや古民家で行われるイベント等のわさびボランティアの存在を知る機会

広報みたかでの情報発信や、古民家で行われているイベントでのボランティアの勧誘など、わさびボランティアの存在を知る機会が、きっかけづくりの基盤となっている。しかし、C 氏、D 氏の場合は、このボランティアの存在を認知しており、認知した上で、参加のきっかけとまでは至っていなかった。

④ 時間の余裕

今回聞き取り調査を行った A 氏、B 氏、E 氏の全員が退職後のライフステージにあり、時間的余裕を有する高齢層である。C 氏、D 氏は職業生活の最中にあり、自由に活用する時間は限定されている。こうした時間のゆとりの違いが、参加を決める要因の一つであるといえる。

5.1.2 継続の理由

A 氏、B 氏、E 氏からの聞き取り調査と、さらにボランティアをしたことのない C 氏、D 氏の比較より、三鷹大沢わさび復興ボランティアの活動の継続の理由として挙げられる要因は、主に以下である。

① 「三鷹大沢わさび」や「三鷹市大沢」への好奇心・興味

自身の住んでいる地域にある、その地域特有の魅力をもっと知りたい、面白い、と思う感情が、活動の継続の要因となっている。

② 活動を通して得られる満足感

大沢の自然に囲まれ、わさび田の清掃作業という体に適度な負担のかかる活動によって、「自分が地域に貢献した」という達成感が得られることが、次の参加を決める要因となっている。また、活動終了後に配布される三鷹地域ポイントの存在も、活動の証拠が可視化されるという点で、A 氏、E 氏は好感に感じているようであった。

③ ボランティアを通して得た新たなつながりの存在

同じ目的をもって活動する仲間の存在に居心地の良さを感じ、また会いたいと思うことが、継続の要因の一つとなっているようであった。特に、活動の最後に行われるお茶を飲みながら活動者同士で談笑する時間が効果的であると B 氏は主張していた。

④ 時間の余裕

5.1.1④でも触れたように、今回聞き取り調査を行った A 氏、B 氏、E 氏の全員が退職後のライフステージにあり、時間的余裕を有する高齢層、C 氏、D 氏は職業生活の最中にあり、自由に活用する時間は限定されている。こうした時間のゆとりが、活動の負担の軽減、さらには継続のしやすさにつながっている。

5.2 ボランティア活動の「きっかけ」と「継続」を妨げる要因

5.2.1 きっかけを妨げる要因

C 氏、D 氏からの聞き取り調査と、さらにすでにボランティアに参加経験のある A 氏、B 氏、E 氏の比較より、各種ボランティア活動のきっかけを妨げる要因として、以下が挙げられる。

① 興味・関心がボランティアの内容やそれ自体に向いていない

C 氏は野球に、D 氏は動物に興味があり、それに関連するボランティアならやってもいいかもしれないと発言した。しかし、現状その興味が向いたボランティアが存在するのかどうか把握するツールが無いと、C 氏は主張しており、さらに興味の幅が狭いことが、ボランティアへの興味が薄めているとも語った。

② 現状に満足し、緊急性がない

現状の生活が充実しており、ボランティア活動をすることによって得られるコミュニティといったものに必要性を認識していない。そのため、そもそもボランティア活動という選択肢が意識の中に存在しない状況にある。また、ボランティア活動自体に自身が「どうにかしないと」といった使命感を抱いておらず、活動参加における緊急性の欠如が、ボランティアへの初動を妨げている。

③ ボランティアに参加することへの心理的ハードル

C 氏、D 氏ともにボランティア活動者に対して好奇心旺盛、フットワークの軽い人、といった認識をもっており、活動参加者を自己とは異なる「特別な存在」として捉えている傾向が見られた。また、A 氏も活動参加時に不安に思っていたと述べており、新しい集団へ入ることには、抵抗感が生まれることがいえる。こうした心理的ハードルが、ボランティアの参加を躊躇させている。

④ 新しいことを始める負担と対価

E 氏のように、ボランティア活動を日常生活に習慣化するのには、一定の時間と労力を要する。そうした新しい活動を始めること、その活動に時間を奪われることに対して、活動で得られるメリッ

トが釣り合っていないと考えるようである。

5.2.2 継続を妨げる要因

E 氏の継続の中止となった理由と、さらにボランティア活動をしている上で参加したくないと思った時の話を参考に、各種ボランティア活動の継続をさまたげる理由として、以下が挙げられる。

① 時間的・体力的な制約

A 氏、B 氏、E 氏は、ともに、活動の作業が体力的に過酷であることを、このボランティアの課題であると発言した。また、定例作業（月 1 回）の他に行われる臨時作業日が平日中心であることが、参加しづらさをうみ、結果として継続率の低下につながっている。

② 運営・活動体制の不透明感

わさびボランティアは三鷹市スポーツと文化部生涯学習課が活動を開始したものである。しかし、活動の中心が市民（参加者）にあるのか、生涯学習課にあるのかが不明瞭である。また、わさびを復興させ、どのように活用していくのかといった、活動の今後不明瞭である。こうした「誰が主導しているのか」「今後わさびをどのように活用していくのか」といった点について、参加者の中で十分な共有がなされているとは言い難いことが、筆者が聞き取り調査や活動に参加して感じてきたことである。

③ コミュニティへの入りづらさ

E 氏は、古参メンバーにより出来上がったコミュニティへの入りづらさを指摘している。新規参加者への活動の説明や、話しかけられる回数の少なさが、心理的に孤立しやすい構造となっていることが考えられる。ただし、A 氏 B 氏は「排他的とは思わない」と認識に差異があることが読み取れる。

5.3 三鷹大沢わさび復興ボランティア活動の課題

5.3.1 新規メンバーの受け入れ方

わさびボランティアの活動は地域資源の保全や地域住民のつながりを促進するという点で、非常に価値がある。この活動の存在を知れば、活動したいと感じる市民も多いはずである。

しかし、E 氏との聞き取り調査や 1 年間のフィールドワークから、古参メンバーと新規メンバーで、活動知識や経験に差があり、そのギャップが新規参加者の混乱を招いている実態が確認された。さらに、作業中も、会話があるものの、全体として和気あいあいとした雰囲気であるとは言い難く、新規参加者が溶け込むのは容易ではないと感じられた。

このような課題に対しては、まず、活動の流れや活動のルールを明文化し、書面や掲示物として可視化することが有効であると考ええる。現在は、活動に関する多くの流れやルールが古参メンバーの間で「暗黙の了解」とされており、新規メンバーの戸惑いを招いている。また、新規参加者が初回からスムーズに馴染めるよう、初回参加時は古参メンバーがペアとなって新規メンバーにサポートするなどの、自然と会話が生まれる仕組みを用意すべきである。

5.3.2 運営・活動体制の不透明感

わさびボランティアは、当初、三鷹市スポーツと文化部生涯学習課によって立ち上げられたものである。しかし現在、その運営主体が市側にあるのか、あるいはボランティア側にあるかが明確にされておらず、今後の方針をめぐって参加者の間に戸惑いや不安が生じている。

特に「活動の中心は誰か」「今後、活動の目的や方法をどう定めていくのか」といった点が曖昧であることが、参加者間の意識のずれを発生しやすくさせている。活動の目的である「三鷹大沢わさびの復興」だ

けでなく、集まった人たちのコミュニティ形成をどうしていくかについても、検討を進める必要がある。

また、三鷹大沢わさびを復興させたその後をどうしていくかということに関しても、不透明であると感じる。三鷹大沢わさびTシャツの販売や、三鷹大沢わさびの商品化など、ボランティアが「営利化」をするという言葉に対して、マイナスに捉える参加者がいることが、今回の聞き取り調査で明らかになった。しかし、筆者が1年間活動を通じて得た印象としては、こうした外部へのPR活動は金銭的な利益を目的としているわけではなく、「三鷹大沢わさびを有名にしたい」という目的が第一であった。こうした「思い」が共有されていけば、活動の方向性についてもボランティア内での共通理解が生まれやすくなると考えられる。

5.4 三鷹市への提案

5.4.1 高齢者になる前からのボランティア活動の推進

C氏、D氏の聞き取り調査から、両者が共にボランティア活動をする「きっかけ」の妨げの要因として、「時間のなさ」を挙げられた。中高生や働き盛りの世代は、生活が忙しくボランティアをする余裕がなく、「ボランティアは高齢者になって時間ができてから」という認識があることが示唆された。実際に、わさびボランティアの参加者の多くは高齢者である。

しかし、筆者自身は高校生として今もわさびボランティアに参加しており、そこから得られた世代の異なる人たちとの繋がりや、地域貢献の実感是非常に貴重な経験になっている。自身の時間を削ってでも参加する価値を実感しており、ボランティア活動には年齢を問わず意味があることを強調したい。

今後、三鷹市としては、いかにして、学生や若年層、働き世代に対してボランティア活動の価値を伝えていくかが重要である。

5.4.2 集まった人たちの関係性の構築

現在、三鷹市では「三鷹まるごと博物館」構想のもと、点在する歴史・文化的資源を「屋根のない博物館」としてひとまとめに捉え、ボランティア活動による保全活動を進めている。このように人が集まる場が生まれれば、次に求められるのはその人間関係の構築である。

つまり、集まった人々の間でどのように信頼関係を築き、どのように役割を分担していくのかが活動の継続と発展にとって不可欠となってくる。ボランティア活動における関係性をより良いものにするための仕組みや仕掛けについても、行政と参加者が共に目を向けていく必要があると考える。

【文献】

岡本栄一監修、2005、『ボランティアのすすめ』ミネルヴァ書房

久米隼、2021、『これだけは理解しておきたいボランティアの基礎』日本橋出版

三鷹市、2024、『第5次三鷹市基本計画』

三鷹市スポーツと文化部生涯学習課、2024、『三鷹エコミュージアム研究「みいむ」』

プロフィール

徳本 唯花（とくもと ゆいか）

東京大学教育学部附属中等教育学校6年。三鷹市在住。三鷹大沢わさびについて学校の卒業研究で調べていく中で、三鷹大沢わさびボランティアに参加、本研究への疑問へとつながった。
